

## テーマ 19 決算の手続き（Ⅳ）

固定資産の減価償却と固定資産の売却について見ていきます。

### ① 固定資産の減価償却

#### 1. 減価償却とは

固定資産のうち、建物、備品および車両などは、使用するにつれて、あるいは時間が経過するだけで、その価値が減少していきます。例えば、5 年前に 5,000 円で手に入れた車両が、今も 5,000 円の価値があるとは限りません。

そこで、価値の減少分を、その固定資産を使用する会計期間に費用として配分する必要があります。こうした手続きのことを減価償却といい、このとき計上される費用を減価償却費といいます。

#### 2. 減価償却費の計算

##### (1) 減価償却の 3 要素

毎期の減価償却費を計算する際に必要な要素は、取得原価、残存価額、耐用年数の 3 つです。このうち取得原価についてはすでに学習済みで、残り 2 つについて説明します。

耐用年数：固定資産が何年間使用できるかを見積った年数をいいます。問題では「耐用年数〇年」と与えられます。

残存価額：耐用年数が経過して処分する時に予想される売却価額をいいます。問題では「取得原価に対して何%」、もしくは金額で与えられます。

##### (2) 計算方法

減価償却費を計算する方法はいろいろありますが、3 級ではこのうち定額法について勉強します。この方法は、毎期一定額の減価償却費を計上する方法で、次の計算式によって各期の減価償却費を計算します。

$$\frac{\text{取得原価} - \text{残存価額}}{\text{耐用年数}} = 1 \text{ 年分の減価償却費}$$

#### 設例 19-1 期首に購入した場合

決算（年 1 回）に際し、当期首に取得した備品（取得原価 5,000 円，耐用年数 5 年，残存価額は取得原価の 10%）の減価償却を行うことになった。そこで、定額法により，1 年目決算における減価償却費を計算する。

$$\frac{5,000 - 5,000 \times 10\%}{5\text{年}} = 900 \text{ 円 (1 年分の減価償却費)}$$

設例 19-1 では，耐用年数経過後（5 年後）に 500 円（5,000 円×10%）の価額が残ることになるので，5 年間で 4,500 円の価値が減少することになります。定額法は，この 4,500 円を 5 年間にわたり每期一定額ずつ費用計上します。

| 経過年数 | 取得原価    | 減価償却費 | 減価償却累計額 | 帳簿価額    |
|------|---------|-------|---------|---------|
| 1 年目 | 5,000 円 | 900 円 | 900 円   | 4,100 円 |
| 2 年目 | 5,000 円 | 900 円 | 1,800 円 | 3,200 円 |
| 3 年目 | 5,000 円 | 900 円 | 2,700 円 | 2,300 円 |
| 4 年目 | 5,000 円 | 900 円 | 3,600 円 | 1,400 円 |
| 5 年目 | 5,000 円 | 900 円 | 4,500 円 | 500 円   |

（注）このときの固定資産の勘定残高を帳簿価額といい，現在の実質的な価値を示します。

会計期間の途中で購入し，使用しはじめた場合には，その期間に応じて次のように月割計算し，減価償却費を計上するのが原則です。

$$1 \text{ 年分の減価償却費} \times \frac{\text{期中使用月から決算日までの月数}}{12\text{ヶ月}}$$

#### 設例 19-2 期中に購入した場合

決算（年 1 回）に際し，当期 8 月 1 日に取得した備品（取得原価 5,000 円，耐用年数 5 年，残存価額は取得原価の 10%）の減価償却を行うことになった。そこで，定額法により，12 月 31 日の決算における減価償却費を計算する。

$$\frac{5,000\text{円} - 5,000\text{円} \times 10\%}{5\text{年}} \times \frac{5\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = 375 \text{ 円 (5 ヶ月分の減価償却費)}$$

### 3. 記帳方法

減価償却の記帳方法には，直接法と間接法の 2 つの方法があります。

#### (1) 直接法

直接法は，当期の減価償却費を減価償却費勘定（費用の勘定）の借方に記入するとともに，固定資産の勘定の貸方に記入して，取得原価から直接控除する方法です。

### 設例 19-3

12月31日、決算（年1回）に際し、当期首に取得した備品（取得原価5,000円、耐用年数5年、残存価額は取得原価の10%）の減価償却について仕訳を示しなさい。なお、減価償却は定額法により直接法で記帳している。

$$\begin{aligned} & \text{(減価償却費) } 900 \qquad \qquad \qquad \text{(備 品) } 900 \\ & * \frac{5,000 - 5,000 \times 10\%}{5\text{年}} = 900 \text{ 円} \end{aligned}$$

### 精 算 表

| 勘 定 科 目 | 試 算 表 |    | 修正記入 |     | 損益計算書 |    | 貸借対照表 |    |
|---------|-------|----|------|-----|-------|----|-------|----|
|         | 借方    | 貸方 | 借方   | 貸方  | 借方    | 貸方 | 借方    | 貸方 |
| 備品      | 5,000 |    |      | 900 |       |    | 4,100 |    |
| 減価償却費   |       |    | 900  |     | 900   |    |       |    |
|         |       |    |      |     |       |    |       |    |

（注）このとき固定資産の勘定残高を帳簿価額といい、現在の実質的な価値を示します。

\* 取得原価5,000円－既償却額900円＝帳簿価額4,100円

### (2) 間接法

間接法は、当期の減価償却費を、減価償却費勘定（費用の勘定）の借方に記入するとともに、固定資産の取得原価から直接減らさずに、減価償却累計額勘定（資産のマイナス勘定）の貸方に記入する方法をいいます。

この減価償却累計額という勘定の性格は、貸倒引当金と同じで、資産勘定からの控除科目としての性格を持っています。

### 設例 19-4

12月31日、決算（年1回）に際し、備品（取得原価5,000円、耐用年数5年、残存価額は取得原価の10%）の減価償却について仕訳を示しなさい。なお、減価償却は定額法により間接法で記帳している。

$$\begin{aligned} & \text{(減価償却費) } 900 \qquad \qquad \qquad \text{(減価償却累計額) } 900 \end{aligned}$$

### 精 算 表

| 勘 定 科 目 | 試 算 表 |       | 修正記入 |     | 損益計算書 |    | 貸借対照表 |       |
|---------|-------|-------|------|-----|-------|----|-------|-------|
|         | 借方    | 貸方    | 借方   | 貸方  | 借方    | 貸方 | 借方    | 貸方    |
| 備品      | 5,000 |       |      |     |       |    | 5,000 |       |
|         |       |       |      |     |       |    |       |       |
| 減価償却累計額 |       | 1,800 |      | 900 |       |    |       | 2,700 |
|         |       |       |      |     |       |    |       |       |
| 減価償却費   |       |       | 900  |     | 900   |    |       |       |
|         |       |       |      |     |       |    |       |       |

| 備 品          |  | 減価償却費累計額 |       |
|--------------|--|----------|-------|
| 取得原価         |  |          | 1,800 |
| 5,000        |  |          | 900   |
| } 2300(帳簿価額) |  |          |       |

| 貸 借 対 照 表 |                |
|-----------|----------------|
| 備品        | 5,000          |
| 減価償却累計額   | -2,700 → 2,300 |

上記のように、使用もしくは時の経過により、当初の価値を失った部分（減価償却累計額）を差し引いて備品の実質的な価値を表示しておきます。

## ② 固定資産の売却

固定資産は不要になると売却することがあります。固定資産を売却した時は、売却損益を計算しなければなりません。この売却損益は、売却価額と帳簿価額を比較して計算します。

### 1. 売却損益の計算

この売却の計算において、もう一度確認しておくべきことがあります。それは、「固定資産の帳簿価額」です。

$$\text{取得原価} - \text{減価償却累計額（既償却額）} = \text{帳簿価額}$$

売却しようとする固定資産がこの帳簿価額よりも高く売れたときは、差額を固定資産売却益勘定（収益の勘定）、安く売ったときは固定資産売却損勘定（費用の勘定）で処理します。

## 2. 売却した時の仕訳

### 仕訳例 1

備品（取得原価 5,000 円，既償却額 1,800 円）を 3,000 円で現金売却した場合，①直接法の場合と②間接法の場合に分けて仕訳を示しなさい。

#### ① 直接法で記帳している場合

（現金） 3,000                      （備品） 3,200  
（固定資産売却損） 200

| 備             | 品             |
|---------------|---------------|
| 取得原価<br>5,000 | 既償却額<br>1,800 |
| }             |               |
| 3,200         |               |

#### ② 間接法で記帳している場合

（現金） 3,000                      （備品） 5,000  
（減価償却累計額） 1,800  
（固定資産売却損） 200

| 備             | 品     | 減価償却累計額       |
|---------------|-------|---------------|
| 取得原価<br>5,000 | 5,000 | 既償却額<br>1,800 |
|               |       | 1,800         |

### 練習問題

次の取引について仕訳しなさい。

(1) 平成×1年1月1日に建物 20,000 円を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。

(                      )                      (                      )

(2) 平成×1年12月31日、決算にあたり減価償却を行う。定額法、耐用年数 15 年、残存価額は取得原価の 10% (間接法によること)。

(                      )                      (                      )

(3) 取得原価 1,600 円、既償却額 850 円のトラックを売却し、代金 800 円は当座預金とした。なお、このトラックについて減価償却は直接法で記帳している。

(                      )                      (                      )  
(                      )                      (                      )

(4) 備品 (取得原価 2,000 円、減価償却累計額 1,440 円) を売却し、代金 600 円は現金で受け取った。なお、この備品は間接法で記帳している。

(                      )                      (                      )  
(                      )                      (                      )

(5) 平成×4年2月1日に、備品 (購入日：平成×1年2月1日、取得原価：3,000 円、減価償却方法：定額法、耐用年数：5 年、残存価額：取得原価の 10%、記帳方法：間接法、決算日：1 月 31 日) を 1,000 円で売却し、代金は月末に受け取ることにした。

(                      )                      (                      )  
(                      )                      (                      )  
(                      )                      (                      )